

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↓ 取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	高齢であっても障がいがあっても、地域社会の一員として暮らせるよう支援するという法人の理念に基づき、「普通の生活を保障する」「人間としての尊厳を守る」「自己決定の尊重と残存能力の活用」を基本理念としている。		
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の朝礼や職員会議などにより、理念に基づいたサービス提供について意見を交わし実践に取り組んでいる。		
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にされた理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ご家族には日々の生活の様子をお伝えする事により、地域の皆様に対しては日常的な交流や自治会の会合での事業所紹介などにより、入居者様の生活が地域とのかかわりの中で営まれることの重要性について理解を求めている。	○	ご家族や地域の皆様との交流を通じて理念の浸透を図りつつ自然な形で地域生活に溶けこんでいきたい。
2. 地域との支えあい				
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩や外出等により近所の方との交流を日常的に行なっており、馴染みの関係ができてきた。		
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に参加し、地域の皆様との関係づくりに努め、御利用者の方と一緒に地域のサロンに参加したりしている。	○	サロンを初め多様な形で地域活動に参加できるよう取り組んでいきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>自治会や民生委員と連携し、災害時の避難場所と介護の提供、認知症介護についての相談など事業所として協力できるよう取り組んでいる。</p>	○	<p>地域との連携により、事業所として地域からの求めに応じて多様な地域貢献が実現できるよう取り組んでいきたい。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>職員各自に自己評価のアンケートを行ない、評価結果とアンケート結果をもとに具体的な改善にむけた話し合いを職員会議などで行なうことにより、実践に取り組んでいる。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議において、活動内容やサービス提供について報告し、メンバーからの意見や感想を活かしてサービス向上にむけて取り組んでいる。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>必要に応じて連絡や問い合わせを行ない、連携を図っている。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>法人内、外の研修や勉強会への参加を通じて権利擁護についての意識を高め、必要な方に対し支援できるよう努めている。</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>事業所内での研修等により高齢者虐待防止についての意識を高めるとともに、個人の状況に気を配り虐待の防止に取り組んでいる。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結ぶ過程において、本人・家族の思いを聞き取り、安心して入居していただけるよう話し合いを持ちながら対応している。退居についても退居後必要な支援について協力できるよう取り組んでいる。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常生活の中で入居者個々の意見や不満・苦情などを拾い上げるように努め、職員会議やケアカンファレンスなどにより対応を検討している。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	入居者の近況や連絡事項を記載した事業所便りを月に一度発行しているほか、金銭管理については出納表を送付している。健康状態については適宜連絡・報告を行なっている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会などの機会を利用し、入居者の生活状況をお伝えしながらご家族の意見や不満・苦情などが引き出せるよう対応している。事業所外の苦情窓口も設置している。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的な業務、職員会議などにおいて職員の意見や提案を聴く機会を設け、運営に反映できるよう取り組んでいる。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	日々の状況に応じて柔軟に対応できるよう勤務調整を行なっている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人の意向により職員の異動は避けられないが、協議により最小限に抑える努力をするとともに、新人職員に対しては研修や引継ぎにより早期に入居者との馴染みの関係を築くことができるよう配慮している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で全職員対象の研修が定期的に行なわれている。必要に応じて外部の研修会にも参加できるよう配慮している。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	包括地域内の勉強会などを通じて地域の同業者と交流する機会を持ち、同業者間の相互研修にも参加している。	○ 地域の同業者との交流や意見交換などについて事業所の枠にとらわれず取り組んでいきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員会議などで職員各自が職務上抱えている問題について話し合う機会を持つほか、必要に応じて個別に聞き取りを行い職員のストレス軽減に取り組んでいる。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の職務状況の把握に努め、必要に応じて助言、指導等おこない職務へのモチベーションを高めるよう努めている。	○ 運営者が事業所の実状についてより把握できるよう事業所視察などを働きかけていきたい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	個別に面会する機会を設け、ご本人の思いや希望について聞き取りを行っている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	面談を重ねることによりご家族様等の思いや希望を汲み上げるよう努めている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談時の聞き取りにより本人、家族が置かれている現状を把握し必要なサービスについての情報提供などを行っている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学や体験利用の機会を持ち、新しい環境に馴染めるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は入居者と生活を共にしているという意識を持ち、家事や日中活動を共にすることによりお互いの信頼関係を高めるよう努めている。	○	職員が必要以上に家事的な支援などを行ってしまうことがある。ご本人に多様な役割を負担にならぬ範囲で提供していけるよう取り組んでいきたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会や外出などでご家族がご本人と過ごせる時間を持っていただけるよう配慮している。近況などについて情報を共有することによりご本人を共に支える関係作りに努めている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人との会話や家人との面談などにより関係を把握し、よりよい関係の構築に向けてかかわれるよう努めている。	○	家族関係の個別性を考慮し、必要に応じて職員が外出に同行するなど必要な支援が柔軟に対応できるよう取り組んでいきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自由に面会、外出などをしていただけるよう配慮するとともに、散髪や買い物などできるだけ本人の希望にそえるよう努めている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者個々の人間関係の把握に努め、職員の支援によりお互いにかかわりを持ちながら生活できるよう配慮している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス利用終了後も随時相談等を受付けることにより、必要に応じて継続的に支援できるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常的なコミュニケーションを通じて本人の意向や希望等を汲み取り、把握できるよう努めている。カンファレンスにより本人がどのような思いや意向を持っておられるか検討している。	○	意思表示や自己表現が困難な入居者様の思いや意向を職員の立場からでなく本人本位で把握する努力を継続していきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面談等によりこれまでの暮らしについてご本人やご家族などから聞き取りを行い経過の把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居者一人ひとりの生活の状況について観察し、記録やカンファレンスなどにより情報を共有することにより個々の現状把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	カンファレンスにより日常生活における課題や支援の内容について意見を出し合い利用者本位の介護計画が作成できるよう取り組んでいる。ご家族の希望が十分に引き出せていない部分があり、遠慮なく意見をいただけるよう信頼関係を築いていかなければならない。	○	より利用者本位の介護計画を作成していくためにカンファレンスの持ち方を検討したり、個別の面談などによりご家族等から多様な意見を引き出し反映できるよう取り組んでいきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的評価、見直しを実施し本人の現状に沿った介護計画を作成するとともに、本人の状況変化に応じてその都度カンファレンスをおこない介護計画を見直すようにしている。	○	業務の都合上総じてカンファレンスが持ちにくい現状があり、時間、内容とも充実したカンファレンスになるよう業務の見直しを含めて取り組んでいきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者個々の生活の様子やそれに対する職員のかかわりなどを記録し、申し送りや連絡ノートなどで職員間の情報共有を図っている。	○	記録の内容が食事量や入浴の有無などが中心になっており、形骸化が否めない。入居者一人ひとりの個別の状況が把握できるよう特記事項などについて詳細に記載するよう改善していきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご本人・ご家族の状況に応じて必要があれば受診の同行や送迎など柔軟に対応できるよう心がけている。ご本人が併設デイサービスの活動に参加できるよう支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の皆様や民生委員さんの協力により、地域のサロンに参加させていただいたり、ボランティアの方々を招き事業所で行事を行うなど多様な地域資源との連携を図っている。	○	地域の行事に参加するなど、今後も地域交流と連携に取り組んでいきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	ご本人の状況把握に努め、必要があれば関係各所と連携をとり対応するよう努めている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	包括地域の事業所連絡会や運営推進会議を通じて情報交換や連携を図っている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族の意向を尊重し、かかりつけ医と状況に応じて連絡を取りあい必要時には受診できるよう支援している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	<p>終末期におけるご本人の状態変化に伴うご家族の複雑な心境に配慮し繰り返し話し合うことによりご本人・ご家族が望む終末を迎えられるよう全職員、かかりつけ医と協力して取り組んでいきたい。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者一人ひとりのプライバシー保護についてマニュアルを回覧したり職員会議で話し合うことにより、すべての職員が意識してかかわるよう取り組んでいる。法人の個人情報保護規定により記録等の取り扱いにも留意している。	○ プライバシー保護について定期的に対応を振り返る機会を設け事業所として意識を高めていけるよう取り組んでいきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入居者個々の状況に合わせたコミュニケーションにより、希望を聞いたり自己決定を促しできるだけ本人の意向が尊重されるようかかわってはいるが、本人の意向が汲み取れず職員の都合で決めてしまうことも多く見られる。	○ これまで以上に一人ひとりへのコミュニケーションに気を配り、本人のペースにあわせたり、選択肢を増やすことによって職員本位にならぬよう取り組んでいきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりの生活の状況を把握し、コミュニケーションをとりながらどのように過ごされたいか希望を汲み取り、できるだけ意向にそえるよう支援している。一方で自己表現が困難な方に対しては職員のペースになりやすい現状がある。	○ 個々の実状とペースに配慮しつつ、時には集団のペースにとらわれず、できるだけ個別にゆったりとかかわり、過ごしていただく機会を持っていきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	ご本人やご家族と希望にそえるよう聞き取りや相談をしながら対応している。理・美容はできるだけ本人の通いなれた店に行けるよう情報収集し対応している。	○ 身だしなみやおしゃれについてご本人やご家族と一緒にその人らしさを追及していきたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの状態に合わせて食事の形態や食器を変えることで、ご自分で食べていただく楽しみを大切にしており、必要に応じて見守り介助をおこなっている。テーブル拭きや片付けなどできるところは職員と一緒にこなしている。	○ 時には献立作りや買い物、調理、片付けまで入居者が主体的に参加できるような機会をつかっていきたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	事業所での飲み物やおやつのほか、家族等からの差し入れや個人で購入したものなど、個々に楽しめるよう支援している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々の排泄パターンを把握できるようチェック表を活用し、声かけや誘導によりできるだけトイレで排泄できるよう支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	できるだけ希望に沿うことができるようコミュニケーションにより意向を確認し柔軟に対応している。	○	入浴される方が多い日にはどうしてもお一人の入浴時間が短くなってしまうため、時間帯を調整するなどしてゆったりと入浴していただけるよう取り組んでいきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個々の生活リズムを把握するように努め、一人ひとり状況にあった寝具を準備し、気持ちよく休息・睡眠できるよう支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの個性や得意分野の把握に努め、それぞれの能力や状況に応じた役割を提供したり、レクリエーションや外出などにより楽しみが感じられるよう支援している。	○	本人の負担にならないよう配慮しつつ、生活の中で個々の能力にあった多様な役割を提供していきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の能力に応じて管理できる方には管理していただき、管理が困難な方には必要に応じて使うことができるよう金銭管理をおこない援助している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	個々の意向を聞きながら、散歩や外出などができるよう支援している。	○	外出先など職員が決めることが多く、選択肢を提供することにより入居者の希望を取り入れていきたい。集団にとらわれず、個別の外出機会が持てるよう取り組んでいきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	個々の希望を聞きながら、墓参りや季節ごとに行楽地への遠出などができるよう支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要に応じてご家族にできるよう支援している。携帯電話を活用しておられる方もある。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会の時間制限もなく自由に訪問していただいております、面会時にはゆったりと過ごしていただけるよう場所を提供するなどの配慮をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所の身体拘束防止マニュアルを周知徹底するよう心がけており、受容と共感による心理的援助を中心に身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関、勝手口などどこにも鍵はかけておらず自由に出入りができる。人の出入りには職員目配りに対応し入居者の所在を確認している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	個々の状況や所在を職員全体で意識的に把握するように努め、夜間には個々のプライバシーに配慮しつつ巡視や訪室により安否確認をおこなっている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	個々の状況を把握し、入居者が使用しない洗剤などは極力すぐに手が届かない場所に保管し、その他の日用品は職員の見守りで対応している。薬などは入居者が普段立ち入らない部屋に保管している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止マニュアルをもとに事故防止に取り組み、ヒヤリハットの検討により再発防止に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急対応マニュアルをもとに緊急時の応急処置や対応について検討している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災マニュアルの確認や定期的な訓練により災害に備えている。地域の方に防災協力員として連携して対応する体制をつくっている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	かかりつけ医の協力のもと、ご本人の状況の変化に応じてその都度連絡をとりあい家族の意向を確認するなどして対応している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	職員全員が個々の入居者の状況に気を配り、異変を感じた際には速やかに連携し対応できるよう取り組んでいる。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルにより個々の薬について確認している。薬の変更や症状の変化について連絡ノートにより情報を共有している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	個々の排便状況についてチェック表で確認し、水分摂取や乳製品を取り入れたり、適度の運動とトイレにしっかりと座る働きかけをおこなっている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	個々の状況や能力に応じて毎食後、歯ブラシなどにより口腔ケアをおこない口腔内の清潔保持に取り組んでいる。	○	協力歯科医と連携し定期的な診察により個々の口腔状況について把握していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスに配慮した献立の工夫や個々にあった食事量と形態を取り入れ個別性に配慮した支援をおこなっている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症予防マニュアルをもとに、日常的な手洗い、うがいを徹底することにより感染症予防に取り組んでいる。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	日頃から食器、調理器具などの除菌をおこない、台所と食材の衛生管理に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関や建物周囲に季節の花を植えたり、玄関先を整理することにより気軽に立ち寄れる雰囲気づくりを心がけている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や廊下には季節の花や飾り物を施し、居間には入居者による絵や押し花などの作品を掲示して、親しみを持って過ごせるよう配慮をおこなっている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々のニーズにより自由な場所で過ごせるよう配慮し、少人数で過ごせるよう3人がけのソファを居間と廊下に配置している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が以前から使っておられたものを持参していただいたり、ご家族と相談しながら必要なものを整え、居心地の良い居室づくりを心がけている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気扇の使用や窓の開放により常時換気をおこない、空調に気を配り適切な温度で快適に過ごせるよう個別に配慮している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室・脱衣場に手すりを設置し個々の身体機能を活用しながら必要な介助をおこなうことにより安全に生活ができるよう支援している。	○	入居者個々の身体機能に応じて介助器具や設備の改修をおこなっていきたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室やトイレなどの表示を大きくわかりやすく掲示している。衣類などにはわかりやすい場所に記名し、ご本人が自分の衣類を認識できるよう配慮している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関先や外回りに椅子が設置しており、日光浴や夕涼みに活用している。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている		①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
		○	③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・法人の理念に基づき、コミュニケーションによる心理的援助に重点を置き、信頼関係を築きながら生活全般にわたり対人援助(身体介護、生活支援、心理的援助)を実践している。
- ・併設デイサービスセンター利用者との日常的な交流があり刺激ある生活を援助している。